

九州歯科大学

第六五回卒業式式辞

式辞

本日、ここに、小川洋福岡県知事をはじめ、来賓各位ならびに保護者の皆様のご出席を賜り、第六五回卒業式を挙行できますことは、卒業生はもとより九州歯科大学教職員にとっても大きな喜びであります。ご多用中にもかかわらず、ご臨席を賜りました来賓の方々に厚く御礼を申し上げます。

また、本学に入学以来、成長を見守ってこられた保護者の皆様方におかれましては、その喜びは一方ならぬものと拝察申し上げます。教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。

さて、歯学科六五期生および口腔保健学科四期生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の皆さんは、卒業証書・学位記を手にして、入学時から今日までの思いがつぶさに蘇り、感無量のことと思います。送る立場の我々教職員も、歯科医療の世界で、明日から君たちが澁刺として活躍する姿を思い浮かべ、社会に貢献する歯学士および口腔保健学士に育て上げたという安堵感とともに、本学で培っ

たプロフェッショナルリズムの精神をもって、これからの厳しい実社会での成功を切に願っています。

九州歯科大学は、平成二七年十月に、あらたに九州歯科大学憲章を制定し、これまでの三つの基本理念に加え、六つの教育研究目標を掲げ、実践的な歯科医療人の育成教育の推進を加速すべく、第二次教育改編を開始しました。この九州歯科大学憲章の前文には、「平成二六年の創立百周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療が提供できる人材の育成を第一義に掲げ、学生、教員、職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します」という文言が綴られています。本学で学修してきた皆さんは、大学を卒業後、あらたな組織の一員として生きていくこととなりますが、いかなる状況にあっても、本学での教えを基盤にして、常に高い志と向上心を忘れることなく、生涯研修に励んでください。そして、様々な局面で自らに課題を課し、培ってきた知識と技術ならびに高い倫理観をもって行動する社会人になることを切に願っています。

古き良き伝統を有する九州歯科大学は、設置団体の福岡県の温かい支援のもとで、これまで通り、歯科医療界を牽

引する実践的歯科医療人を育成していくことに変わりはありません。そのようななか、昨年十月「口腔保健・健康長寿推進センター」を設置し、地域歯科医師会（北九州市歯科医師会、門司歯科医師会、小倉歯科医師会、戸畑歯科医師会、若松歯科医師会、八幡歯科医師会）と連携協定を結び、大学と地域の歯科医師が一体となって、地域住民に貢献する活動を開始しました。

一方、福岡県は、アジアのゲートウェイとして様々な活動を行っていますが、そのなかで、九州歯科大学は、創立百周年を機に、Global and Local Academic Collaborationを掲げ、Kyushu Dental University という英語名に相応しい口腔の総合大学の道をしっかりとした足取りで歩んでいます。今後、すべてのライフステージにおける口腔保健の向上に対応することができる歯科医療人の育成を通じて、国民の全身の健康増進を図ることが歯科医療人に求められています。近い将来、このような歯科医療の新たな展開は、我が国のみならず、世界的レベルで求められます。このような認識のもと、諸君も栄えある Kyushu Dental University の卒業生として、Think globally、act locally の精神を大事にして、新たな志向性をもって歯科医療人としてグローバルな道を歩むことを強く望みます。

歯学科卒業生は、歯科医師に課せられている卒業研修医として、四月から新たな道を歩むこととなります。この制度が運用されるようになってから十年が経過しましたが、平成十六年五月三日の新聞紙上に、当時、国立がんセンター総長を務められていた垣添忠生先生が、卒後研修について、以下のような言葉で、国民に語り掛けています。「卒業後、臨床医は患者さんを正しく診断し、適確に治療することが何よりも大切だ。そのために学問が必要であり、研究が重要であることは百も承知である。しかし、良き臨床医であるためには、患者さんや家族の話を深く聴き、患者さんの苦痛を共感する心を持つことが必須である。我が国に根付き始めた卒後研修によって、若い研修医に臨床医としての謙虚さ、思考の柔軟性、鋭い観察眼を身に付けていただきたい、と思う。そして、患者さんやご家族には、彼らを育てる大切さを理解していただきたい。」この垣添先生の言葉には、良き臨床医を育成するという観点から、切なる思いが表されています。一方で、著名な解剖学者である養老猛司先生は、その著書のなかで、「無知は罪悪である。その無知な状態から少しでも逃れて、物事を理解しよう、自然や社会に関連する科学、周囲の人や自分自身を理解しようということが、知性なのだ」と述べています。このような先人の言葉を借りて、あらためて、歯学科のみ

ならず、口腔保健学科卒業生全員に対し、これからの歯科医療活動において、Evidence based Dentistry を展開することを強く望むとともに、「生涯学習」を忘れることなく、真摯に歯科医療にかかる職業を通じて社会に貢献することを強く求めます。

むすびに、中国の孔子が残した名言「学びて思わざれば、則ち罔し。思いて学ばざれば、則ち殆うし。」を卒業生諸君に送り、いかなる困難に遭遇しても、常に真摯に学ぶという精神を失うことなく、唯我独尊に陥らないように不断の生涯研修に努め、国内外で広く活躍する医療人となることを切に願い、私からの式辞と致します。

平成二九年三月十六日

九州歯科大学

学長 西原 達次